

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	農林水産部 農地農振室、農山漁村・担い手支援課
評価対象期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館	施設種別	農林業振興
	所在地	杵築市山香町大字日指1番地1		
	設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。		
指定管理者	名称	公益社団法人 大分県農業農村振興公社		
	代表者名	理事長 力徳 昌史		
	所在地	大分市舞鶴町1丁目4番15号		
指定管理業務の内容	①施設等の利用、農業・農村に係る情報の提供、都市と農村との交流の促進、研修に関する業務 ②農業文化公園及び都市農村交流研修館の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ③農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用受付及び案内に関する業務 ④農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の許可に関する業務 ⑤農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の促進に関する業務 ⑥その他知事が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み (1)施設の設置目的の達成 ①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。 ②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。 【所見】 〈大分農業文化公園〉 ○平成24年度の入園者数は286,574人で、前年度より12,018人(4.3%)増加したものの、目標指標330,000人に対する達成率は86.8%となった。4月～6月までの期間で見れば前年度の同期間より、累計で9,767人増加しており、前年を大きく上回る入園者数が見込まれていたが、7、8、10、11月と前年を下回る月が続いた。7月に大分県を襲った豪雨災害の影響と考えられる。しかしながら、豪雨災害の影響があらながらも最終的には昨年度を上回る入園者があったことは評価できる。 ○入園者から寄せられていた日陰対策として、サービス改善事業としてパラソル4基とベンチ8基をみどりの広場に設置し、看板表示に工夫をした。例年多く寄せられるトイレの不足については、園内マップ等により設置場所の説明を徹底している。以上のように、入園者が快適に過ごすことのできる施設にするための取組みを行っている評価できる。 ○毎年行っている季節のイベント(夏休み子どもパーク、日指の椿まつり等)に加えて、フラワーガーデン、ハーブ園や花の育苗等、一年を通じ花のある公園作りをコンセプトに整備を促進し、新規事業として県内若手鉢物生産グループと連携した鉢物展示会と即売会、寄せ植え講座を実施している。

- 利用促進対策としては、テレビ局や新聞社等への情報提供、年4回開催しているイベントについてはマスコミや放送局等へ直接訪問し、自治体、公民館、福祉施設、屋外スポーツ団体等にも直接出向いてチラシ配布等をお願いしている。積極的に利用促進のための活動を行っている。公園情報の入手先についてはHP、情報誌、紹介等が増加し、多様化が進んでいる状況から、杵築市のケーブルテレビの端末設置、オンラインショッピングの実施等を行っており、効率的な情報発信が行えていると評価できる。  
〈大分県都市農村交流研修館〉
- 目標指標については、年間の研修満足度は93.9%、受講定員充足率は92.5%と、いずれも目標値80%を上回って達成している。
- 利用者数は、27,794人で、前年度に比べて197人増となり、自主目標の27,310人を達成した。研修館全体の稼働率は55.3%であり、前年度の51.5%に比べて3.8ポイント上がった。これは、会議室、大研修室、和室の利用回数が前年より増加したことによる。
- 利用者の増加を図る取り組みとしては、受講生に県産茶サポーターとして県産茶をPRしてもらうことを目的に「おおいの茶人」制度を新設し計6回、延べ496人の参加を集めて日本茶を楽しむ講座を開催。試験も実施し、おおいの茶人5名を認定した。そのほか農業や農村文化に関する農業文化公園ならではの講座を27回、農村女性ステップアップ公開講座を12回開催、さらに人気の高い料理講座においては、受講者決定を抽選方式に変えて新規参加者を増やすなど増員に向けて、積極的に取り組んでいる。
- 施設間の連携については、子ども向けの体験講座の日程を公園のイベント開催日に合わせ、参加率の向上を図った。
- 営業・広報活動については、福祉施設等に対し、貸館を積極的にアピールし利用率向上に繋げた。ホームページ、メディア、フリーペーパー等各種媒体を活用した広報活動に加え、JA、公民館等へ出向いてパンフレット等で直接PRをするなど地道な活動が行われている。

(2) 利用者の満足度

- |                                             |
|---------------------------------------------|
| ①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。         |
| ②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。             |
| ③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。                   |
| ④利用者への情報提供が十分にされたか。                         |
| ⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 |

〈大分農業文化公園〉

- 入園者を対象にアンケートを実施したところ、58%が「大変満足」、27%が「ほぼ満足」、13%が「普通」、1%が「やや不満」、1%が「不満」という結果であり、98%が普通以上の評価となっている。「大変満足」と「やや満足」の合計も22年度が88%、23年度が86%、24年度は85%となっており、毎年8割以上であり評価できる。アンケートの集約数が23年度の272件から、24年度は405件と増加している点は評価できるが、入園者数の割には依然として低いままなので、今後も集約数増加に向けて努めていく必要がある。
- 利用者の意見として、トイレの不足が多く寄せられている。これに関しては、園内マップ等によりトイレの設置場所の十分な説明を徹底し、また職員による説明も強化するなどして対応している。また、障害者用トイレにオストメイト、女性用トイレに荷物用フックを設置した。
- 利用者への情報提供としては、テレビ局や新聞社等への情報提供や、イベント毎にチラシ・ポスターを作成し、立地企業・福祉施設を始め、県内外の各種団体等へ配布している。また、インターネット社会に対応するため、インターネット上での情報告知の強化や、公園HP上で随時イベントや講座の様子を紹介した。ネットショッピングの取扱も開始した。  
杵築市のケーブルテレビと連携し、公園情報の発信を強化した。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 各講座の受講生に対し、随時、アンケート調査を行っており、特に食に関係する講座の人気の高さは、満足度の高さの結果と思われる。
- 講座・研修の満足度は5段階アンケートの上位2段階のものを月ごとに集計して計測しているが、常に90%を超えており、最高98.6%(2月)と高水準で推移している。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- |                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| ①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。             |
| ②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。 |
| ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。                                               |

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 人件費については、前年を3,968千円(6%)上回る結果となった。しかしながら施設等維持管理費(保守管理費、清掃費、植栽管理費)は昨年より4,314,231円の削減がなされている。清掃業務については23年度から委託せずに直営とし、警備、設備の保守点検等の業務についても、複数年での委託契約を締結するなど、更なる経費縮減を図っている。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 光熱水費、施設等維持管理費が昨年度より減少しており、効率的な取り組みが行われている。

(2)収入の増加

①収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 24年度の売上額は84,035,074円であり、23年度の売上額78,132,906円から5,902,168円増加した。入園者数の増加に伴い売上額も増加したと考えられる。入園者のうち、家族連れの方や60代以上の方が多くを占めるので、そうした層に向けたイベントの実施、情報発信を行うことが、入園者数や売上額の増加につながると考えられる。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 利用料金収入は、764,150円で前年より63,900円減少した。これは施設利用回数が、397回から405回に増加しているものの、利用時間が599時間から565時間へと減少したことによると思われる。利用料金免除額は62,400円が変わらない。
- よって、公園や県関係の開催以外の一般利用を高め、貸館収入を上げる必要がある。
- そのため、福祉施設などに、貸館の積極的な営業活動を行っているが、さらなる取り組みとイベントなどの誘致が望まれる。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取り組み

(1)施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。

②職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか。

③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 入園者の多い土日祝日や、GW・夏休みなどの繁忙期に人員を多く配置するなど、業務量に応じた体制としている。
- 職員の資質・能力の向上のための研修会等を行っている。24年度は合計14回実施した。
- 地域や関係団体等との連携や協働について、以下の取り組みを行っている。
  - ・ 杵築市スポーツ振興課、B&Gと連携し、公園内のウォーキングを行い、17名が参加した。
  - ・ 別府大学と提携し、夢米棚田プロジェクトの活動として、公園内の棚田で田植えから収穫を行った。
  - ・ 地元小学校卒業生による記念植樹を行い、地域の児童との交流を図っている。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 各種講座の講師として、農村女性をはじめ、地元の人材を最大限に活用している。また、農業団体、NPO、県などと連携した研修会や農山漁村女性グループと連携したイベントの開催など、目的に沿った適正な運営が行われている。

(2)平等利用、安全対策、危機管理体制など
①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
②施設の利用者の個人情報を守るための対策が適切に実施されているか。
③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。
⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。
【所見】 〈大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館〉
○ 個人情報の取扱いについて、公社策定の「個人情報保護規程」の徹底を図っている。入園者向けには「個人情報の取扱いについて」と題した情報セキュリティポリシーを4箇所に掲示しており、その遵守に努めることとしている。なお、これまで漏洩等の事故は発生していない。
○ 施設の利用受付に当たっては、施設設置条例及び関連規定等を遵守し、利用目的を確認し、公平・平等な取扱いを行っている。
○ 安全管理については、施設管理や防火管理、事故対応マニュアル等を整備、またインフルエンザや食中毒、口蹄疫等、特別の事象についても個別のマニュアルを整備している。
○ エントランスにAED(自動体外式細動器)を設置している。
○ 個人名を記入するアンケートは集計後にシュレッダーにかけるなど、個人情報の管理は徹底されている。

## 【総合評価】

〔所見〕 〈大分農業文化公園〉
○ 施設の管理運営については、法令や規則、マニュアル等に基づき適正に行われていると評価できる。入園者数は豪雨災害の影響がありながらも、昨年度を上回ったことは評価でき、アンケート結果からも満足度の高さがうかがえる。2回以上訪れた方も80%と高く、22年度76%、23年度79%だったことから、リピーターが増えてきていると言える。
〈大分県都市農村交流研修館〉
○ 事業については、その設置目的にそって、より大分県都市農村交流研修館らしさを追求した講座の内容と地域人材の活用を進めてきた結果、講座によっては、他県からの受講生もあるなど、一定の成果をあげている。また、農山漁村女性のキャリアアップに向けた研修やイベントに積極的に取組み、女性の能力開発と経営意欲の向上に貢献している。
〔今後の対応〕 〈大分農業文化公園〉
○ 引き続き、公園のコンセプトにそった事業を積極的に実施するのはもちろんのこと、これまで以上に創意工夫に富んだイベントを企画することで、より広く県民に公園に対する興味を持ってもらい、農業・農村に触れる機会の創出を促したい。
○ さらに、営業、広報活動等にも一層力を入れ、まだ公園のことについてよく知らない人にも興味を持ってもらい、新たな入園者の確保に努めることで年間利用者数330,000人の達成を目指す。
〈大分県都市農村交流研修館〉
○ 事業については、引き続き、農業をベースに独自性と質の高さを追求した展開を期待する。また、そうした事業が、より広く、一般県民に伝わるよう、広報についてはより効率的な方法を導入することが望まれる。さらに一般向けの貸館営業活動について、その効果的、効率的方法を検討し、利用者数増と収入増を目指すことが望まれる。

【指定管理者評価部会の意見】

- 広い園内で、トイレの案内表示が見やすくなり、休憩場所が確保されるなど、サービス向上に取り組んでいる点は評価できる。
- アンケート結果について、現在の単純集計だけでなく、地域別・目的別・年齢別などでクロス集計による分析を行い、効果的な広報等につなげて来園者数の目標指標の利用者330,000人が達成できるよう努力してもらいたい。
- 農業文化公園の黒字増加のためには、利益率が高い飲食収入を更に伸ばすことが求められるが、そのためには現状で飲食収入が伸びていない原因について、来園者の滞在時間、時間帯等の分析を行い、それを基に対策を立てるということを行ってはどうか。
- 都会などから就農を希望して県内農村へ移住する人が増えつつある中で、研修館において、特に女性をターゲットとして、地元食材や伝統料理に関する講座などを行い、移住者を含む農村女性のネットワーク形成の拠点として研修館が機能することを期待したい。